





1349  
2132  
37

詩

四  
石  
傳



136

本宗

自序

詩、漢、唐、宋、元、明、清、各代、  
の、詩、は、各、代、の、風、俗、を、表、す、る、  
の、鏡、と、い、ふ、可、い、

余、年、子、體、之、後、  
の、詩、は、  
各、代、の、風、俗、を、表、す、る、  
の、鏡、と、い、ふ、可、い、

和、歌、乃、風、俗、代、  
の、詩、は、  
各、代、の、風、俗、を、表、す、る、  
の、鏡、と、い、ふ、可、い、

事、  
の、詩、は、  
各、代、の、風、俗、を、表、す、る、  
の、鏡、と、い、ふ、可、い、

系、  
の、詩、は、  
各、代、の、風、俗、を、表、す、る、  
の、鏡、と、い、ふ、可、い、





湯ゆ小こ白はくつるつる至いた木き勿なきら乃なるる哉や  
那な待まちりてりて昇のぼくく梅うめ々々々々  
若わ菜さい者もの待まちやや時とき々々々々子こ可か水みづ々々お  
同どう一いつめめ女にああひひ同どう一いつ々々々々骨ほね  
秋あき首くびをを著あ者もの人ひととと思おもへへとと形かたち々々々々  
不ふ通つう移いとと其その形かたち々々々々ののあ

とと人ひと事こと以もつつ小こ世せ作つく者もの乃な  
粉こな粉こなをを掌てのひら々々々々とと形かたち々々々々  
戲あそ言ことばののれれもも思おもへへとと出でるるとと言ことば々々  
ふふらら腹はら満み々々々々々々一いつ寸すんとと後のち々々々々  
遠ちひののままののまま一いつ寸すんとと後のち々々々々一いつ  
又また拾ひろ子こ之の筋すぢ系けいをを借かりりてて先まのの



室筋とペント詳しき利

十時

申孟春

成之橋

風雨迹

序

由基矢成控縁之橋

平浦旦弦彈一亭

鳥落皆その的伸

古らぬあやかり 宴有

風雨あはれ 晝夜市の



小母と纏る予閑と手

見世三味線の少口にと

尋常風流唱歌乃新法な

探是れ新法に行りて

廓教可佳妓ト題ア

園崎のそとあまらり

秘にまきり転向とら

流へしまがかみさ母の

糸口の一々序文も

字あけし件と判と秘

きしくら味は味は

川とみさ







かんぶ  
あつ丸

遊

昔樓  
夜話

廊敷可佳妓目録

教習

向うの隠れかまきり  
まゝのあつ丸のあつ丸の  
あつ丸のあつ丸のあつ丸

才一日

二階のあつ丸のあつ丸の  
あつ丸のあつ丸のあつ丸  
布袋ちあ



才二日

此の松乃縁々知も縁々世々  
よの中れ所あは子遠々一吐乃情  
まら名も世界一面か吐乃情  
雷ははカ節

才三言

丁子車のはり丸は情と知乃  
あ痛よて押にあはは患乃心  
一のあらう乃二子ら思ひと述  
糸れ文七

以と

青樓夜話廊敷可佳妓

成三樓風雨著  
神田あつ九校合

人間の栄枯ら更わら合は情と知乃  
抑も抑も随て子河の風流は押らつり  
申は朝と控の遠より子河の約は駒若も  
つねにわらう家と浮世はらくふすま五川の







揚河をせしむるに河東の蘭河東の  
のつてうらふらんや六のつてうらふらん  
かういふがたふらんや六のつてうらふらん  
のちふらんや六のつてうらふらん  
はかしてうらふらんや六のつてうらふらん  
めのつてうらふらんや六のつてうらふらん  
こつてうらふらんや六のつてうらふらん  
水内志がうらふらんや六のつてうらふらん  
揚河をせしむるに河東の蘭河東の

揚河をせしむるに河東の蘭河東の  
のつてうらふらんや六のつてうらふらん  
かういふがたふらんや六のつてうらふらん  
のちふらんや六のつてうらふらん  
はかしてうらふらんや六のつてうらふらん  
めのつてうらふらんや六のつてうらふらん  
こつてうらふらんや六のつてうらふらん  
水内志がうらふらんや六のつてうらふらん  
揚河をせしむるに河東の蘭河東の











ら所へまきしやふ **市** 町ふしおゆるせ **市** 伝 伝

おしからしる **市** の可はま **市** 町ふしおゆるせ **市** 伝 伝

ふ **市** **市** 町ふしおゆるせ **市** 伝 伝

ふ **市** **市** 町ふしおゆるせ **市** 伝 伝

ふ **市** **市** 町ふしおゆるせ **市** 伝 伝

ふ **市** **市** 町ふしおゆるせ **市** 伝 伝

ふ **市** **市** 町ふしおゆるせ **市** 伝 伝

ふ **市** **市** 町ふしおゆるせ **市** 伝 伝

ふ **市** **市** 町ふしおゆるせ **市** 伝 伝

ふ **市** **市** 町ふしおゆるせ **市** 伝 伝

ふ **市** **市** 町ふしおゆるせ **市** 伝 伝

ふ **市** **市** 町ふしおゆるせ **市** 伝 伝

ふ **市** **市** 町ふしおゆるせ **市** 伝 伝

ふ **市** **市** 町ふしおゆるせ **市** 伝 伝

ふ **市** **市** 町ふしおゆるせ **市** 伝 伝

ふ **市** **市** 町ふしおゆるせ **市** 伝 伝

ふ **市** **市** 町ふしおゆるせ **市** 伝 伝

ふ **市** **市** 町ふしおゆるせ **市** 伝 伝

ふ **市** **市** 町ふしおゆるせ **市** 伝 伝

ふ **市** **市** 町ふしおゆるせ **市** 伝 伝































知つて居るは母お若くしのは

ちやアよもり〜市

も後後の後後

る〜おて

以故おて

市よあか石の

しやあか〜案

おひ市〜久

のあつて人市後

〜案

〜案

〜案

〜案

〜案

〜案

〜案



なまじりくゆるおびくろ市 いんちやちか 何れ

定りしゆるおびくろ市 いんちやちか 何れ

なまじりくゆるおびくろ市 いんちやちか 何れ

何れ考ておびくろ市 いんちやちか 何れ

秘むしゆるおびくろ市 いんちやちか 何れ

なまじりくゆるおびくろ市 いんちやちか 何れ

なまじりくゆるおびくろ市 いんちやちか 何れ

なまじりくゆるおびくろ市 いんちやちか 何れ

なまじりくゆるおびくろ市 いんちやちか 何れ

矢野屋

おびくろ市

申す

丁子軍のほり流の情のあはれのお論  
ましおひお押さるる意の山一りの後の  
一もい思いとて免一毎の交せ

二丁目流子や佳川 いんちやちか 何れ















Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a fluid, connected style across approximately 10 lines. The ink is dark and the paper shows signs of age.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a fluid, connected style across approximately 10 lines. The ink is dark and the paper shows signs of age. There are several square symbols interspersed within the text, possibly serving as markers or section dividers.















その家よりしるすに、  
さるに、  
もあきます、  
らげても、  
まよ、  
う、  
く、  
と

今の、  
は、  
て、  
あ、  
ま、  
て、  
の、  
あ、  
あ、



わいのし川とてかきかきくすてむら  
はまらあはらうとあまらうとあまら  
しと文そ乃を我るるるる二廿三廿七  
あ中房さるはうあうとあまらうとあまら  
乃とあれはあれと一可中  
あまらうとあまら  
にわあせせと [文]  
あまらうとあまらうとあまらうとあまら  
あまらうの大いあまらうとあまらうとあまら  
あつてん<sup>上</sup>あまらうとあまらうとあまらうとあまら

法川とてかきかきくすてむら  
と二回のとてあまらうとあまらうとあまら  
法の中とてあまらうとあまらうとあまら  
十あ紙色あつてと二田進あと [文] 田舎  
てとあまらうとあまらうとあまらうとあまら  
福とて [文] あまらうとあまらうとあまら  
法とて [文] あまらうとあまらうとあまら  
あ福とあまらうとあまらうとあまら [文] あまら



折るの落

シ

ト嵐を向ふ事に折れたるもの  
の成る一も一ひすまき乙也  
けりしとあきつるあり折  
類はりの物も本

千三二〇〇〇

目  
谷

子  
る  
千



